

第3回 糸島市学校規模適正化検討委員会 会議録

日 時：平成29年2月21日（火）10：00～12：30
場 所：糸島市役所 11、12号会議室
出席者：田上委員、柚木委員、石川委員、浦委員、梅田委員、山本委員、
古藤委員、北野委員、有働委員、佐藤委員
泊教育部長、平野教育総務課長、石硯学校教育課長、高田教育総
務課長補佐、井手教育総務課主任主査

会議次第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 前回会議録の確認
- 4 協議・検討
 - (1) 学校規模が及ぼす学校教育への影響（教員の人的配置）について
 - (2) アンケート結果について
 - (3) 意見交換
- 5 その他
- 6 閉会

1 開会

(略)

2 委員長あいさつ

(略)

3 前回会議録の確認

(略)

4 協議・検討

(委員長) それでは、協議検討事項に移りたいと思います。まず、「学校規模が及ぼす学校教育への影響、教員の人的配置について」ということをお願いします。

(1) 学校規模が及ぼす学校教育への影響（教員の人的配置）について

(事務局) (1)「学校規模が及ぼす学校教育への影響（教員の人的配置）」について説明

(委員長) ありがとうございます。今の説明について何か質問・意見がありましたらお願いします。

(A委員) 非常勤講師について質問ですが、18頁によれば糸島市ではいろいろ工夫をしていますが、15頁で、非常勤講師の配置を同一日にするには時間割の調整が必要とありますが、実際には同一日でできているので、できるということでしょうか。

(事務局) 実際に今年行っているのは、非常勤ではなく常勤講師になります。

(A委員) 時間割の調整ということに関して言えば、同一日に設定することは可能ですよね。

(事務局) 同じ教科を同一日に設定してもらっています。

(A委員) であれば、非常勤講師ではだめだという理由にはなりませんよね。実際に同一日にしているのであれば、非常勤講師の確保が難しい理由の中に同一日が難しいというのは当てはまらないのではないかと。常勤だったら大丈夫で非常勤だったら難しいということなのかな。

(事務局) 同一日に設定するには調整が必要だということで、実際にやっていますの

で、できないということではありません。ただ、学校全体の時間割を調整してもらい必要がありますので、時間割を調整することが難しい、大変ということです。同一日でできないから非常勤講師でできないということではなく、同一日に設定するのが難しいということです。

(A委員) でも今は工夫をされているということですよ。この部分だけを見ると非常勤講師を配置したくないという意向ですか。

(事務局) 非常勤講師を配置したくないという意向ではなく、非常勤講師の確保が難しくなっているということです。非常勤講師が確保できないということになりますと、その教科の履修ができないということになりますので、そうなってしまうと生徒の方に負担が生じてくることになりますので、講師を早めに確保して年度当初から授業ができるように配慮しているということになります。

(A委員) 8頁に新規採用教諭が配置されると他の教員の負担が増えると書かれていますが、5頁に今後10年間で4割強の教諭が定年を迎えるということは新任の教諭が採用されるようになると思いますが、新任教諭は宝だと思えますので、負担が増えることになるかもしれませんが、うまく学校の中で育成できる仕組みを考えてほしい。負担ととらえるのではなく、うまく育成してほしいと保護者として思います。

(事務局) ここで挙げていますが、小規模校の場合はどうしても教員配置数が少ないため、先ほどの事例でいいますと、3学級の場合は教員配置数が7人となり、この中に初任者が複数配置されると残りの教員でフォローしながら校務分担することになります。今後多くの退職が見込まれる中で小規模校に初任者が配置されないということは考えにくいのですが、他の教員への負担ということを考えると適正規模や大規模に比べると小規模校の方が負担が大きくなるということを申し上げました。

(A委員) このことは課題ではなく、前提条件になりますよね。分かっていることなので今から対応を考えてほしいと、保護者としては思います。

(事務局) 負担というのは、初任者が単に経験不足だから負担になるという意味ではなく、初任者教諭を採用すると初任者研修を実施するにあたり、初任者2人に対して1人の初任者指導教員を配置しなければいけない。研修時間を確保するために後補充の講師を確保しなければいけない、初任者2人採用になると2人の教員を確保する必要があります。あと、若年層の教諭が多い学校では育児休業への代替教員の配置などが考えられ、小規模校で若年層の教員の配置が進むと他の教員への負担が増えるということになります。

(B委員) 教員定数を変えることはできないのか。

(事務局) 教員定数は3頁に挙げております県教育委員会が定める基礎表に基づいて配置人数が決まります。実際にはこの定数以外の配置もありますが、はっきりしているのはこの人数になります。

(B委員) 以前、美術科の非常勤講師をしていたことがありますが、1時間ほどかかる山間地の過疎地域の学校で大変でしたが、糸島も同じような状況だろうと思えますが、そもそも美術科などの副教科の教員の確保が難しいというのは教員数の問題ではなく、小規模校であれ大規模校であれ、きちんと配置できるようにしてほしいというのが親としての考えです。糸島独自で方策を取ってほしいと思います。

(事務局) 教員の確保については、福岡教育事務所にも本市の方から積極的に声掛けをしております。例えば、九州大学や福岡教育大学、周辺の大学にも声掛けをして教員の確保をしていますが、美術科、技術科などの教員免許が取得できる学校がそもそも限られていますし、各大学で教員免許を取得されている

方も更に限られているという実情があります。教員免許所有者で非常勤講師をしてもらえる人材をどう確保していくかは今後の課題だと考えています。本市としてはできる限りのことは手を尽くしている状況です。

(B委員) 福吉中学校や志摩中学校姫島分校の非常勤講師の確保は大丈夫なのか。
(事務局) 現状は先ほど申しあげましたとおり、3校に別々の教科の常勤講師を配置しています。講師の方も、非常勤よりも常勤の方がよい、常勤優先ということになりますので、任用後に他の2校も兼務してもらっています。

(C委員) 事例では教員をバランスよく配置しているが、実際はどうなのか。
(事務局) それぞれの学校の考え方にもよりますが、資料中は説明用に各教科の教員が同数になるように配置させているので、すべての教科に教員を配置させていますが、学校によっては例えば数学科に力を入れたいなどの考えがあると思いますので、表上の平均持ち時間数が24時間以下になるようにするのであれば、各学校の考え方によって教員の人数にばらつきがあってもよいということになります。

(B委員) 副教科のために学校の統合を考えようとするのは問題点が違うのではないのか。

(事務局) 今回例として挙げたのは学校規模と教職員配置ということでお話しさせていただき上で、本市として小規模校ではどのように取り組んでいるのかということ为例として紹介させていただいたということになります。

(C委員) 教頭が授業を持っている学校はあるのか。

(事務局) 例えば教員が休暇を取った場合に代わりに入るといえることはあると思います。学校によっては道徳、総合学習などで教頭が指導する、あるいはチームティーチングで指導するといえることはあると思います。

(B委員) 年齢構成について年代が上がると比率も上がるということですが、これは今後の入れ替えの課題になってくるかと思いますが、糸島で採用された場合は糸島内で異動と書いてあるが、年代間のバランスを考えて地区間の異動というのはないのか。

(事務局) 教員の配置ですが、基本的には福岡教育事務所管内で行われます。多いパターンとして糸島に最初に配置されれば糸島内での継続勤務になりますが、数年前までは3年目異動というのがありまして、糸島で採用された人であっても3年後は他地区に異動させるということもありました。その時に応じて年齢構成や経験年数に応じた異動というのはあります。それぞれの教員の居住している地域との兼ね合いもありまして、糸島に勤務している教員は糸島に居住している人が多くて、通勤時間が短い方がよいという考えもあり糸島勤務の継続を希望する人が多い現状です。決して糸島から他地区に異動しないということではありません。

(B委員) バランスを考えた時に糸島の中だけ考えるとこういう問題が生じてくる。

(事務局) この傾向は糸島だけの問題ではなく、県や全国同じです。

(委員長) 6頁の学校規模別の一覧がありますが、中学校の小規模校では50歳代が60%を超えているが、これはベテラン教員を小規模校に意図的に配置しているのか。たまたまこうなったのか。

(事務局) 今回の資料については現状の教諭の年齢構成を計上しただけです。先ほど説明しましたとおり、小規模校はどうしても教員の配置人数が少ないということになりますので、やはりベテランの教員の方が多くなるのではないかと思います。特に意図的に配置されているということではないと思います。

(委員長) 他に質問等がなければ次に進みたいと思いますが。
(特になし)

(2) アンケート結果について、(3) 意見交換

- (委員長) では、アンケート結果について事務局から説明をお願いします。
- (事務局) (2)「アンケート結果」について説明
- (委員長) よろしいですか。それでは質問がありますでしょうか。
- (D委員) 見方がよくわからないが、最初の学校規模別集計では小規模校の小学校保護者集計で、学級数の「ちょうど良い」が37.2%になっているが、比率集計のほうでは、42.3%になっている。なぜか。
- (事務局) 最初に説明しました資料では回答の占める割合で計算をしております。こちらでは比率集計で出していますので、各学校の比率を単純に平均した比率になっています。ですので、比率集計表で見るほうが、全体の比率を見るときは正しいのではないだろうかということで今回はこちらの集計もしています。ただし、分母自体は元々、小規模、標準、大規模という形で算定していますので大きく傾向が変わるということはありませんが、比率としてみるときには各学校の比率を例えば小規模校であれば7校分の比率を足して割ったものが比率集計になります。
- (D委員) まだ分かりにくい。規模別集計を転記しているわけではないということか。
- (事務局) (比率集計表は)比率で表しています。大きいものと小さいものがあつた場合は意見が引っ張られる可能性がありますので、それぞれの比率を集計しました。平均を取っているものが比率集計になります。
- (D委員) まだ、比率集計の意味が理解できないのだが。規模別集計の方は回答数を単に割ったものということで理解できる。比率集計の出し方をもう一度説明してほしい。
- (事務局) 例えば、小規模校の中で2校あつた場合で60%と40%であつた場合、60と40を足して割ったものが比率集計になります。全体の数としては大きく変わるものではありません。1校1校の数は同じくらいになっているので傾向としては大きく変わりません。率で比較していく場合にはそれぞれの学校の比率を足して平均をする、それがその規模の学校の意思を反映していると考えます。
- (D委員) (学校規模別集計は)全体で出したということか。
- (事務局) 回答数を足して全体で割ったものが学校規模別になります。比率集計は各学校のパーセンテージを平均したものになります。傾向としては変わりませんが、数字は若干ですが異なります。
- (D委員) どちらの方が正確といえるのか。
- (事務局) 傾向としては比率集計の方になります。こちらの方がより適切に表しています。
- (委員長) 例えば、アンケート全体集計の30頁の中学校教員の集計があるが、比率集計表では27頁になるが、問1のグラフを見ると小規模校は変わっているが、標準規模と大規模は全く同じ数値が入っている。これは偶然そうなのか。
- (事務局) 標準規模校で言えば、1校しかありませんのでどちらで計算をしても同じものになります。小規模校で数値が変わってきますのは「ちょうど良い」は比率集計では37.2%になります。全体集計の方になると、42.4%になります。比率集計になりますと、特に志摩中学校が66.7%と非常に高い比率になっています。その他の二丈中学校、福吉中学校は20%台になっています。この3校を足した平均が37.2%になります。全体の教員の数でいきますと、志摩中学校の数が大きいので学校ごとの集計でいくと数値が高くなります。率としてみるときには学校数で平均したほうがより適切な率

で見ることができると思います。そのような理由から比率集計を出しております。どうしても数が多い学校の答えに引っ張られてしまいますので、それを防ぐために比率集計で出しております。

(D委員) 学校で差があって、地域性が出ているということになるのではないかと。それを平均化してしまうと逆にそういうことでいいのかと疑問に感じる。多い方と少ない方をそのまま出したほうがいいのか。

(事務局) 大規模と小規模を混ぜてしまうとそういうことになると思いますが。

(D委員) 小規模だけであっても、大規模だけであっても、それぞれで足したのちに割って平均を出すのでは同じ。(各校のアンケート集計で出てきた)数値というのは大事なものだと思うのだが、学校によって違うというのは。

(事務局) 学校別集計は学校別集計として出ていますが、小規模校としての傾向を見る場合にはそれぞれの学校の比率を見たほうが良いと思います。例えば、教員でいけば、志摩中の教員の方が多いです。そうすると全体で見れば、そちらのほうに引っ張られてしまいます。比率で見た場合はパーセンテージで見ますので、数の比較ではありませんので、パーセンテージを比較したほうが良いと思います。

(E委員) 大きい方に引っ張られるということだが、区分としては小規模、標準規模、大規模と分けているのだから、小規模が数値的に大規模に引っ張られるということはないのではないかと。

(事務局) 極端に変わるということはありません。小規模と大規模を混ぜてしまうと極端に変わることはありますが。

(E委員) 両方のデータを見て、要は小規模と標準規模と大規模と分けている。なので、引っ張られるということはないのではないかと。

(事務局) 先ほど来の話ですが、福吉中と二丈中と志摩中とあった場合は、志摩中の結果に他の2校が近寄ってくることになります。

(D委員) 各校の違いがあっても、小規模ならば小規模で平均して表したものであることか。それぞれの規模で検討するということがこのようになるのか。

(事務局) 傾向としては変わりません。パーセンテージは若干変わりますが。

(D委員) このような場合は、そのような(比率集計)やり方をするのか。資料が多すぎて分かりにくい。

(事務局) 規模別集計と比率集計では若干数値が違ってきます。

(D委員) そうしたならば、この中で最終的にこの資料で検討してほしいと出されたほうが良い。これはこれというのがある(分かりにくい)

(事務局) 実際、膨大なアンケートを限られた時間で、職員の手で処理してありまして、各委員への資料を送付した以降に、もう少し正確性を期した資料を出したいということで検討をした結果、比率集計の方がもっとバランスのよいアンケート結果になるのではないかとということで、作成した次第です。委員のご指摘のようにどの資料で検討するのかということになりますが、より正確性を期するという点で比率集計の資料を提示しております。

(委員長) もう一度確認をしたいのですが、標準規模は1校しかありません、中学校は1校だけですね。そうすると標準規模に関しては数値は変わらないはずなんですが、例えば、中学校保護者の、アンケート全体集計の23頁の「もっと少ない方がよい」の回答者の割合が書かれていますが、対応しているのが20頁の上段になると思います。

(事務局) 本日、あえて説明してありませんでしたが、こちらの誤植で小規模校の数値が入ってしまいました。26頁の小規模校の数値と同じになっています。

(D委員) そうなってしまうとますます分からなくなる。資料が多すぎて紛らわしくなっている。事務局は作成している側なので精査しているのだろうが、(委員

は) もらって見ているほうなので互いのレベルの違いはある。なので、資料を沢山もらっても。なので、最終的にこれで検討してほしいというものをもらったほうが、意見も言いやすいのではないか。

(E委員) この資料の中のどれかで検討してくださいとしたほうが(委員としては)やりやすい。

(事務局) 資料をお送りしておりましたが、比率集計の方がより正確に見ることができるといことで本日お配りしております。最終的には比率集計が各規模の状況を捉えていると考えますので、比率集計で検討をお願いしたいと思います。アンケート全体集計につきましては、それぞれの個数が全体に占める割合になります。こちらについては(紛らわしくなるので)回収させていただきます。

(A委員) 検討課題についてですが、クラスの定員の変更は検討課題になりますか。「学級数をもっと多い方がよい」の回答の理由として、クラスの人数を減らして学級数を増やしたほうがよいという意見があったので、これも議題になるのでしょうか。

(事務局) 冒頭にお話ししましたとおり、学校規模が及ぼす影響ということで教員の配置についてお話しした中で、市教委独自で教員を増やすということは現状考えていません。

(A委員) 小規模校にもクラスを増やしてクラス替えをしてほしいという意見もあった。それでもできないという前提で検討をするのか。

(事務局) 教員の意見の中にもクラス数を増やせば解決するのではないかという意見もありました。

(委員長) 自由回答はどれくらいあったのか。先ほどの報告の中ではいくつか紹介されていたが。保護者や生徒、教員から出ているのか。

(事務局) それぞれの最後の頁に自由回答欄の回答を記載しています。

(委員長) 例えば、中学校の生徒の欄に書かれてないのは、なかったということではないのか。

(事務局) 児童・生徒には自由記載欄がそもそもありません。

(委員長) 保護者については。

(事務局) 保護者と教員のアンケートには自由記載欄があります。

(委員長) 中学校の保護者からはなかったのか。

(事務局) それぞれの学校集計の最後の頁に掲載しています。

(委員長) そのほかに質問はありますか。

(特になし)

(事務局) 本日はアンケート集計の内容を説明させていただき、ご意見を伺いたいと考えておりました。アンケートの内容が多かったため、今回はそこまでは難しいと思います。時間も過ぎておりますので今回は資料の説明をさせていただいたということで、次回以降にご意見を伺いたいと考えます。

5 その他

(A委員) 福岡市の提言を参考資料で配布されていますが、どの程度の内容を検討していかなければならないのか。

(事務局) 当初、第一段階、第二段階と考えていました。第一段階は基本的な考え方、第二段階は具体的な考えという形で検討をお願いしておりました。福岡市の資料でいきますと、ちょうど10頁に規模について触れていますが、第一段階としてはこうした所までの検討をお願いしたいと思います。

(委員長) 今後の進め方も含めて意見がありましたらお願いします。

(特になし)

『第3回糸島市学校規模適正化検討委員会 会議録』

(委員長) ないようですので、本日は資料を説明してもらったということで。本日の検討はここまでにしたいと思います。

(事務局) 本日はアンケート集計の説明をいたしました。ご意見等がありましたら事務局にお願いしたいと思います。次回以降、今回を受けてのご意見等をお伺いしたいと思います。次回の委員会につきましては後日日程調整のうえ、またご連絡をいたします。これで本日の委員会を閉会したいと思います。

～12時30分閉会～